

エンジニアtype主催「最先端技術セミナー」の講師に聞く

ネットセキュリティで求められる人材は全体を見渡す「システムアーキテクト」

エンジニアtype恒例のキャリアアップセミナーが5月19日(土)に開かれる。今回講師としてお迎えする日本ヒューレット・パッカートの佐藤慶浩氏は、日本におけるネットセキュリティの第一人者。セミナーを前に、佐藤氏にネットセキュリティの現状と求められる人材について聞いた。

もはやインターネットなしではビジネスが成立しない時代を迎えている。ネットワークを意識することはエンジニアの基本条件となっている。しかし、一口に「ネットワーク」と言っても、求められる知識やスキルは広範囲だ。その時々状況によって、もっとも重

視される分野は変化してきた。日本ヒューレット・パッカートの佐藤慶浩氏は「今後、もっとも重要になるのはセキュリティ」と断言する。

「インターネットに代表されるネットワークの世界はこれまで、パフォーマンス、安定性というテーマでの問題解決の段階を経てきました。パフォーマンスとは、換言すれば『アクセスが速いこと』という意味。安定性とは、言うまでもなくシステムダウンが限りなくゼロに近いことです。むろんまだまだ改善する必要がありますが、これら2つの課題に加えて、現状では何よりもセキュリティが最大の課題となっています。ネット上を流れるデータが途中で改ざんされたり、データがのぞき見られてプライバシーが侵害されたりすれば、インフラとしてのネットの信頼性が地に落ちてしまう。こうなるとはネットを活用した新たなビジネスも生まれにくくなります」

すなわち、ネットワークを意識することがエンジニアの基本条件ならば、セキュリティを意識することもまた、基本条件と言ってもいいだろう。

むろん完全なセキュリティを実現するのは並大抵のことではない。

「確かにインターネットには様々な危険があります。極論すれば、万全なセキュリティを求めるならケーブルを抜いてネットにつなげなければいい。しかし、それではビジネ

スそのものが成立しなくなってしまいます。コンサルタントに求められているのは、どのリスクならば、あえて取ることができるか助言し、そのリスクを最小にするようなセキュリティ対策を探究する姿勢です」

金融機関のケースを見ても、佐藤氏の発言の妥当性が理解できる。あえてインターネットにつなげるというリスクを取ることで、ネットバンキングなどの新しいサービスを実現し、顧客を増やすことができた。もし「守りのセキュリティ」のままだったら、このようなことは実現されなかっただろう。リスクを恐れず、そのリスクを克服することを課題に邁進できるコンサルタントが、今後重用されることは間違いない。

白紙から描ける技術者のニーズ増

しかし、そうしたエンジニアは日本では少ないのが現状だという。

「これまでは他の分野と同じく、欧米から入ってきた技術を日本風にアレンジして事足りりとする風潮がありました。それではいつまで経っても欧米企業との差別化はできません」

さらにここ1~2年は、そうしたニーズよりも「どういビジネスのために、どんなITが必要か」を白紙から描けるエンジニアのニーズが急速に高まっている。

「ビジネスマインドを持ち、目指すべきビジネスの背景を広範囲かつ深く熟知した上で、システムを構築できる『システムアーキテクト』こそが、今後もっとも求められる人材になるはず」

では、どうしたらシステムアーキテクトになれるのか？ むろん、「セキュリティ」というキーワードは不可欠である。にもかかわらず、「セキュリティの経験は必ずしも必要ではない」と佐藤氏は断言する。その理由については、セミナーで明らかにされるはずだ。



日本ヒューレット・パッカート株式会社

HPコンサルティング事業統括本部
セキュリティ&ITストラテジー・コンサルティング
グループ長

佐藤慶浩

P R O F I L E

日本アポロコンピュータ(株)を経て、90年に日本ヒューレット・パッカート(株)に入社。OS、マルチメディア、インターネット、ハイアベ、セキュリティなどの分野を専門とし、現在はセキュリティ・ソリューションのコンサルタントとして活躍中。日本ネットワークセキュリティ協会理事、IPAセキュリティセンター研究員も務める